

105-214

問題文

22歳男性。身長175cm、体重60kg。花粉症の症状がひどくなったので、家族が使用していた一般用医薬品の小青竜湯エキス顆粒の服用を考えたが、陸上競技の国体選手であったため、かかりつけ薬剤師に相談した。

薬剤師は、小青竜湯エキス顆粒にはアンチ・ドーピング規程における禁止物質が含まれるため、服用しないよう指示した上で、近隣の医療機関への受診を勧奨した。その結果、次の薬剤が処方されたので、薬剤師が処方監査を行った。

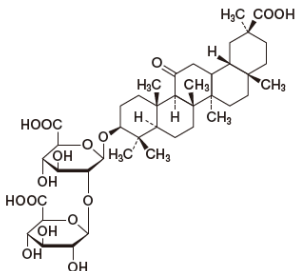
(処方)

フェキソフェナジン塩酸塩錠 60 mg	1回1錠 (1日2錠)
	1日2回 朝夕食後 14日分
ベタメタゾン錠 0.5 mg	鼻水のひどいとき 1回1錠 10回分 (10錠)
フルチカゾンフランカルボン酸エステル点鼻液 27.5 μ g	56噴霧用 1本
	1回2噴霧 両鼻腔 1日1回 点鼻
フルオロメトロン点眼液 0.1% (5 mL/本)	1本
	1回1滴 1日4回 両眼点眼
エビナスチン塩酸塩点眼液 0.05% (5 mL/本)	1本
	1回1滴 1日4回 両眼点眼

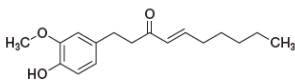
問214

小青竜湯エキス顆粒に含まれる成分のうち、アンチ・ドーピング規程における禁止薬物に該当するのはどれか。1つ選べ。

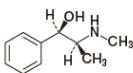
1



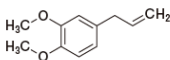
2



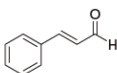
3



4



5



問215

処方された薬剤のうち、アンチ・ドーピングの観点から、処方変更を医師に提案すべき薬剤はどれか。1つ選べ。

1. フェキソフェナジン塩酸塩錠
2. ベタメタゾン錠
3. フルチカゾンフランカルボン酸エステル点鼻液
4. フルオロメトロン点眼液
5. エピナスチン塩酸塩点眼液

解答

問214：3問215：2

解説

問214

漢方薬について、アンチ・ドーピングで注意すべき成分は麻黄です。麻黄に含まれるエフェドリンが禁止薬物となります。エフェドリンの構造は選択肢3になります。

以上より、正解は3です。

問215

フェキソフェナジンのような、抗ヒスタミン薬については、アンチ・ドーピングの観点から気にする必要はありません。選択肢1は誤りです。

抗点鼻や点眼については、通常の用法・用量であれば、アンチ・ドーピングの観点から気にする必要はありません。選択肢 3 ～ 5 は誤りです。

以上より、正解は 2 です。